

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名豊興運株式会社 小牧北物流センター	階数	地上3F
建設地	愛知県小牧市	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条指定地域	平均居住人員	5人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,750時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年12月 予定	評価の実施日	2016年5月20日
敷地面積	4,747 m ²	作成者	中村英樹
建築面積	2,417 m ²	確認日	2016年5月27日
延床面積	5,934 m ²	確認者	中村英樹

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算: ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

機能性 耐用性 対応性

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.4

生物環境 まちなみ 地域性・

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

水資源 非再生材料の 汚染物質

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	5.0	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	4.0	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	4.0	-	4.0	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	4.0	-	4.0	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	3.0	-	-	-	-
2 温熱環境										
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-	3.0	-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	-	-	3.0	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	3.0	-	-	-	-
2.2 湿度制御		-	-	-	-	3.0	-	-	-	-
2.3 空調方式		-	-	-	-	3.0	-	-	-	-
3 光・視環境										
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	5.0	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	5.0	-	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	-	-	5.0	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	-	4.0	-	-	-	-
3.3 照度		-	-	-	-	4.0	-	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	-	-	3.0	-	-	-	-
4 空気質環境										
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-	-	-	-	5.0	-	-	-	-
2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 換気量		-	-	-	-	3.0	-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-	4.0	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	3.0	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	5.0	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	4.0	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	4.0	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 内装計画		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 衛生管理業務		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震		3.0	0.52	-	-	-	-	-	-	3.0
1 耐震性		3.0	0.48	-	-	-	-	-	-	-
2 免震・制振性能		3.0	0.80	-	-	-	-	-	-	-
3 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33	-	-	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	2.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.17	-	-	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		4.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-
2.4 信頼性		2.8	0.19	-	-	-	-	-	-	-
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-
3 電気設備	②	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-
3 対応性・更新性										
3.1 空間のゆとり		4.6	0.31	-	-	-	-	-	-	3.9
1 階高のゆとり		5.0	0.60	-	-	4.0	-	-	-	-
2 空間の形状・自由さ		4.0	0.40	-	-	3.0	-	-	-	-
3.2 荷重のゆとり		5.0	0.31	-	-	3.0	-	-	-	-
3.3 設備の更新性		2.6	0.38	-	-	-	-	-	-	-
1 空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	-	-	-	-	-
2 給排水管の更新性		1.0	0.17	-	-	-	-	-	-	-
3 電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-	-	-	-	-
4 通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-	-	-	-	-
5 設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	-	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保	②	3.0	0.22	-	-	-	-	-	-	-

給水管:HIVP、排水管:VP、消火管:SGP
 排気77>20年

1・2F:6.2m、3F:5.8~6.3m
 壁長さ比率=0.12
 15000N/㎡

スコアシート 実施設計段階		独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	1.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				4.0	0.43	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)			BEIm=0.37	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.29	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源確保				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.8	0.63	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.21	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	ALC素地or躯体+軽鉄+PB(別が容易)	4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				5.0	0.68	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			屋根断熱材はガラス繊維、冷媒断熱なし	5.0	1.00	-	-	
3 冷媒				-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値:70%	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮				3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止			燃焼機器なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.3	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自		-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		独自		3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音		独自		3.0	1.00	-	-	
2 振動		独自		-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

名豊興運株式会社 小牧北物流センター建替・新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 名豊興運株式会社 小牧

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>倉庫としての機能性・使いやすさを追求する一方、設備の高効率化によるエネルギー使用量の削減や、燃焼機器未採用による大気汚染の防止を図っています。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>特にありません。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>給排水配管や設備機器の長寿命化を図っています。 階高、空間形状、荷重にゆとりを持たせ、機能性・使いやすさを追求しています。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>特にありません。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>LED照明を採用して設備システムの高効率化を図っています。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>内装はALC素地or躯体+軽鉄+PBとして分別を容易にし、部材再利用の可能性向上に取り組んでいます。 フロン・ハロン等の汚染物質含有材料の使用を回避しています。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>ライフサイクルCO2概算値を70%に抑え、地球温暖化へ配慮しています。 燃焼機器を採用せず、大気汚染防止を図っています。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>